



賢く 優しく 逞しく

1月号・令和7年1月8日発行

本校URL <http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/> 武蔵村山市立第五中学校

笑顔と悔し涙と絆を成長の糧に

校長 榎戸 千代子

令和7年を迎えました。今年の干支は「乙巳（きのとみ）」です。「巳」（へビ）は、脱皮を繰り返して成長することから「生命力」や「再生」を連想させ、自らの殻を破り、変化を遂げることを表しているそうです。「乙巳」は芽吹きが成熟し、転機を迎える時期、特に「巳年」は、「転換の年」や「物事が大きく進展する年」として知られ、発展、飛躍が期待できそうです。本年も教職員一同、五中を今以上に発展できるよう努力をしております。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、年明けは恒例の箱根駅伝をいつも楽しみにしています。母校がシード権を獲得するようになった頃から、学生たちが繰り広げる汗と涙の感動ドラマに魅了され、観戦を続けてきました。しかし、いつしかテレビ中継では満足できず「生」の瞬間を味わいたいと思うようになり、今年も沿道へ応援に出掛けました。

到着予想時刻の2時間くらい前から、三々五々と人々が集まり始めます。湘南海岸沿いを小田原方面に向かって歩きながら沿道で101回目の応援小旗をもらい応援場所を探していると、かなり混み合ってきました。中継所の手前100メートルくらいのところでガードレールの一番前を確保しました。周囲には校名入りのタオルやうちわをもった人などもたくさんいました。

沿道の両側に三重、四重の人だかりができた頃、「あと10分ほどで通過します。」とアナウンスをした先導車が通り過ぎました。目の前には手際よく中継所へ誘導するコーンが敷かれ、沿道からの飛び出しを防ぐ係員も配置につき、その時を待ちます。

やがて、後方から小旗が揺れ始め、「がんばれ！！」という声が聞こえてきました。最初に現われたのはA大選手で、大きな声援が飛び交います。監督車から監督さんの姿も見えました。次々と最後の力を振り絞って目の前を通過していく選手たちに、母校のみならず熱い声援を送りました。



沿道の応援は一瞬ではありますが、母校のタスキを背負って必死に走る姿に何ともいえない感動を覚えます。この日のためにどれだけトレーニングを積み重ねてきたことでしょう。ケガや体調不良で出られない選手がいる中で、コンディションを整えることも大変なことだったと思います。そして、何より駅伝は、何人かの強い選手がいても勝てないスポーツです。一人一人がもてる力を発揮し、最後まで諦めない粘り強さと「チームワーク力」が問われます。

駅伝終了後に「悔し涙を飛躍の糧にする」とおっしゃった監督さんがいました。結果で「笑顔」になれるのか、「悔し涙」を流すのか、そこにはいろいろなドラマがあると思いますが、どの大学もタスキをつなぐという「絆」で結ばれている。この、「笑顔」、「悔し涙」、「絆」が人を成長させるのだと思います。

このことは、駅伝だけではありません。第五中学校も今年、創立45周年を迎えます。開校以来、教育目標である「賢く・優しく・逞しく」の精神のもとに五中の歴史と伝統を受け継いできました。今年も五中の生徒たちが、努力や挑戦を重ねてたくさんの「笑顔」や「悔し涙」を経験し、仲間との「絆」を深めてほしいと思います。そして、大きく飛躍、成長し、新たな歴史を刻む一年になってほしいと願っています。

明るいあいさつ・みんなの笑顔

第五中学校区（二小・八小・十小・五中）